



地域連携の充実に向けて

連携サポートセンターが開設されて約1年が経過しました。この間、私たちが力を入れてきたことのひとつが地域連携です。病院職員が地域に出向き、地域の中で病院がどのように役立つのか、地域・福祉の動向をふまえた連携強化、顔の見える関係づくりに努めてきました。

さらに、病院の話し合いは患者さんの生活をどのように維持し、本人の希望をかなえていくかということに焦点が当てられます。しかし、第7次医療計画の見直しの「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」にもあるように、地域では各機関と連携しながら支援体制を構築するといった「まちづくり」が重要です。これは、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労)、地域の助け合い、教育が包括的に確保された支援体制を構築するということであり、当センターではそのための取組みを始めました。

例えば、精神疾患を抱える人が孤立しないようにという目標のもと、関係機関で支援方法案を作成しました。それ実現可能にするため、ピアの方を招き、より具体的な方法を検討してきました。どこから情報を入手できるのか相談先がわからずはじめの一步がむずかしい、SNSなどの影響を受けて正しい知識を得ることがむずかしいなどのピアの視点ならではの課題を共有することができました。

私たちは支援者という立場でなにができるのかを常に問い、地域共生社会に近づけるよう病院機能の一部を拡大し、患者さん主体の医療を実現するために今後も地域連携を強化していきたいと考えています。

私たちは支援者という立場でなにができるのかを常に問い、地域共生社会に近づけるよう病院機能の一部を拡大し、患者さん主体の医療を実現するために今後も地域連携を強化していきたいと考えています。



Contents

- 地域連携の充実に向けて
- 精神科救急病棟と地域の連携
- MRI・CTの依頼検査について
- コグニサイズ促進協力施設に認定されました
- 当センターの内外の様子をストリートビューで公開しています

精神科救急病棟と地域の連携

神奈川県立精神医療センターでは、神奈川県全域からの精神疾患に関するご相談をお受けしています。相談元は、治療を希望されるご本人やご家族以外にも、地域のクリニックや身体治療を主とする病院、施設、そして役所や警察などの公的機関と多岐にわたっています。

そしてそれぞれのご相談に対し、適切な医療を医師・看護師・精神保健福祉士の多職種で検討し、必要に応じて入院加療も含めた具体的な調整を行っております。

更に夜間・休日など精神科治療の緊急性を要する事案が発生した場合には、神奈川県立精神保健福祉センターを窓口として当センターへの受診につなげる「神奈川県精神科救急システム（以下、システムと略します）」により、精神保健指定医診察のもと緊急入院を受け入れています。

このシステムでは入院理由となった症状の初期治療を当センターで行います。その後も入院治療の継続を要する場合には、精神保健福祉センターと当センターの精神保健福祉士が連携し、対象患者さんのかかりつけ病院やお住まいの近くの病院への転院までを調整しています。

精神症状により、自殺企図や他害行為など大切な命と健康に影響が起ることもあり得ます。このシステムは地域で暮らす方々の生命線のひとつといえると思います。そこで私たちは速やかな受け入れのため、常に緊急に備えて入院ベッドを確保し、日々、早期退院を目指した医療に取り組んでいます。精神保健福祉センターからも毎日ベッド数の確認が病棟にあり、行政と病棟の直接的な連携を実施しています。

しかし、課題として入院された患者さんの身体合併症時の連携があげられます。当センターの入院により身体合併症が明らかとなったものの、その診断と治療について専門科との連携に非常に多くの時間を要している現状があります。患者さんが身体的治療も含め、最善の医療を速やかに受け取ることができるよう、連携していきたいと考えています。



MRI・CTの依頼検査について

神奈川県立精神医療センターでは、地域の医療機関とより一層の連携を深めるためMRI・CT装置での依頼検査をお受けしております。当センターは精神科単科という特徴を持っており、一般科の患者さんはもちろんのこと、精神疾患の方でも安心して画像検査を行うことができます。

MRI装置は3テスラを導入しており、従来よりも短時間（約30分～60分）で高精細な画像が取得できます。検査可能部位としては頭部の検査を主体に行っておりますが、全身（乳房、心臓を除く）の検査も可能です。

認知症検査では、VSRAD・BAADを用いて画像解析を行っております。VSRAD（ブイエスラド）・BAAD（バード）は脳MRI画像から脳の萎縮の度合いを評価し、早期アルツハイマー型認知症の診断を支援する目的で開発されたソフトです。それを画像処理および統計処理によって健常者との萎縮の度合いを解析します。なお、対象年齢はVSRADが54～86歳、BAADが20～80歳です。

CT装置は80列を導入しています。検査では、脳検査を始め、全身の検査も承っています。MRI・CT検査共に造影剤を使用する検査はお受けしておりません。

検査結果は、1週間程度で検査画像の入ったCD-R、放射線科医師が作成した読影レポートを紹介元医療機関まで郵送します（郵送費は当センター負担）。

予約枠には、充分空きがあります。どんどん申し込みをお待ちしております。



コグニサイズ促進協力施設に認定されました

令和4年2月14日に当センターは、コグニサイズを普及する協力施設として認定されました。コグニサイズとは国立長寿医療研究センターが開発したcognition(認知)とexercise(運動)を組み合わせた造語で、運動で体の健康を促すのと同時に、脳を活性化させる機会を増やすことで、認知症の発症を遅らせることを目的としています。

指導者の資格を持つデイ・ケア科スタッフが院内ではもの忘れが気になる方を対象に体育館を広く使いコグニサイズ&軽スポーツを行っており、院外では地域ケアプラザと連携しコグニサイズの体験会や地域住民の方々による自主グループ化を支援しています。

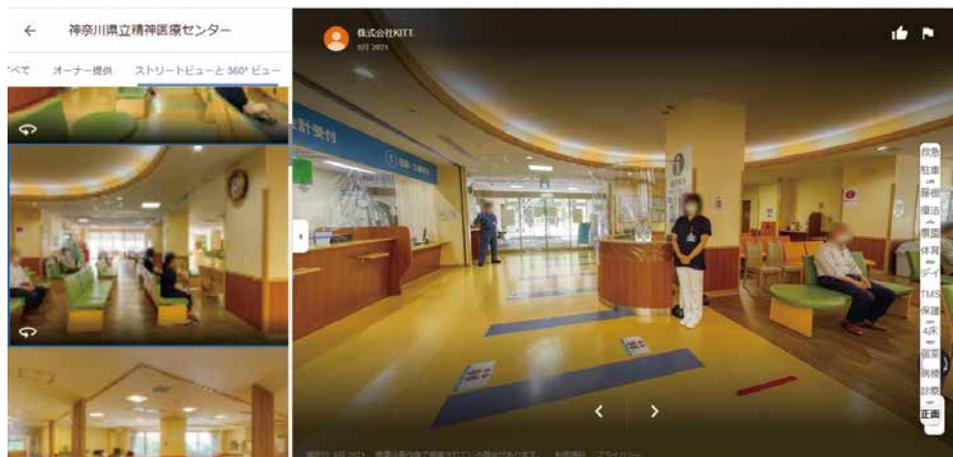


当センターの内外の様子をストリートビューで公開しています

コロナ禍で当センターの見学会やイベント等の自粛が続く、施設紹介が十分にできない日々が続いております。そこで、令和3年9月よりGoogleストリートビューを作成し、公開しています。

正面入り口から外来、駐車場など初めて来院される方にとって必要な情報だけでなく、病室、保護室、rTMS室など普段はいることができないエリアも見ることができます。

Googleマップからまたは<http://seishin.kanagawa-pho.jp/outpatient/streetview.html>より閲覧が可能です。



前回19号でご案内した令和4年3月5日開催予定でした「神奈川県立精神医療センター 春の健康まつり」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月開催に変更いたします。参加受付等については時期になりましたら当センターHPにてお知らせいたします。

センターニュースではみなさんのご意見を随時募集しています。
取り上げてほしいテーマや、ご要望がある方は下記メールアドレスまでご連絡ください。

神奈川県立精神医療センター 総務課 soumu.1517@kanagawa-pho.jp